

鳥羽商船高等専門学校		開講年度	平成27年度 (2015年度)		授業科目	数値解析		
科目基礎情報								
科目番号	0033			科目区分	専門 / 選択			
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	海事システム学専攻			対象学年	専1			
開設期	後期			週時間数	後期:2			
教科書/教材	A N S I Cによる数値計算法入門 第2版、堀之内総一著、森北出版							
担当教員	藤井 正光							
到達目標								
1. 各種の数値解析アルゴリズムについて説明できる。 2. 数値解析生じる誤差の原因、及び、改善法について説明できる。 3. C言語を用いて、数値解析アルゴリズムの記述ができる。								
ルーブリック								
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	複数の数値解析のアルゴリズムを挙げ、それらの概要を述べる事が出来る			数値解析のアスゴリズムを複数挙げる事が出来る		数値解析のアルゴリズムを挙げる事が出来ない		
評価項目2	数値解析に生じる誤差の原因を述べ、その改善法について説明できる			数値解析に生じる誤差の原因を説明できる		数値解析に誤差が生じる事を説明できない		
評価項目3	数学的・工学的な問題を解くため、数値解析法を用いたプログラムを設計し、記述する事ができる			数値解析法を用いたソフトウェアを設計する事が出来る		C言語を用いたプログラムが記述できない		
学科の到達目標項目との関係								
教育方法等								
概要	【海事 平成27年 1年・2年 春、生産 平成28年 1年・2年 前期 開講】 科学技術計算のための数値計算法の基礎について解説する。 また、数値計算法を用いて、数学的・工学的な課題を解くことで理解を深める。							
授業の進め方・方法	・ 各種の数値解析アルゴリズムについて、C言語を用いて記述する課題を課すので期日までに提出すること ・ 数値解析を用いて、数学的及び工学的問題を解く課題を課すので期日までに提出すること							
注意点	・ 単にプログラム作成だけをするのではなく、授業内容を復習することによって原理も理解すること							
授業計画								
後期	3rdQ	週	授業内容			週ごとの到達目標		
		1週	講義概要の説明 コンピュータの数値表現とその特徴			コンピュータ内部の数値表現を説明できる 桁落ち、情報落ち、浮動小数点を説明できる		
		2週	1変数方程式の解法			2分法、ニュートン法を用いて 1変数方程式を解く事ができる		
		3週	連立1次方程式の解法Ⅰ			ガウスの消去法を用いて 連立1次方程式を解くことができる		
		4週	連立1次方程式の解法Ⅱ			ガウスジョルダン法を用いて 連立1次方程式を解くことができる		
		5週	補間法Ⅰ			多項式補間法を用いて、数値補間ができる		
		6週	補間法Ⅱ			ラグランジュ補間法を用いて、数値補間ができる		
		7週	関数近似Ⅰ			最小二乗法を用いて、離散値の関数近似ができる		
	4thQ	8週	中間試験			中間試験		
		9週	関数近似Ⅱ			スプライン関数を用いて、離散値の関数近似ができる		
		10週	数値微分			差分公式を用いて、数値微分ができる		
		11週	数値積分Ⅰ			台形公式を用いて数値積分ができる 刻み幅と計算精度について説明できる		
		12週	数値積分Ⅱ			シンプソン公式を用いて数値積分ができる		
		13週	常微分方程式Ⅰ			オイラー法、ホイン法を用いて、 常微分方程式の解を求める事ができる		
		14週	常微分方程式Ⅱ			ルンゲクッタ公式を用いて、 常微分方程式の解を求める事ができる		
		15週	定期試験			定期試験		
		16週	定期試験の解説と確認			定期試験の解説に基づいて、正しい数値解析プログラムを記述できる		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標								
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週	
評価割合								
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計	
総合評価割合	50	0	0	0	50	0	100	
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0	
専門的能力	50	0	0	0	50	0	100	
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	